

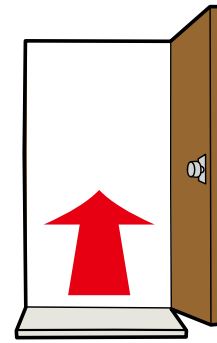
# Ⅲ 要配慮者ケース別の援護のポイント

## 1 目の不自由な人のために

### 白ごろの備え

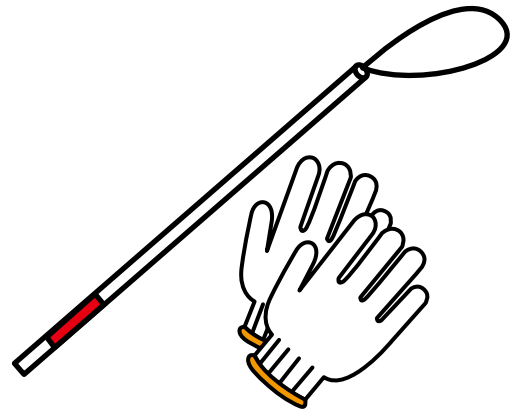
#### 家具の配置

家の中の家具の配置をあまり変えないようにしましょう。家の中、外の避難路をあらかじめ決めておき、安全の確認をしましょう。（その場所には物を置かない）



#### 白杖の準備

白杖は、いつも身近な一定の場所に置くようにしましょう。



災害時には、壊れた物を触りながら避難することになります。軍手などを用意し、常に一組は携帯しましょう。

### 屋内で地震にあったら

室内の様子はどうなっているかわからないので、普段のようにつもりで動かないようにしましょう。



#### ■ 出火の確認

神経を集中して火気を感じたり、煙が出ていないか臭いをかいでみたりします。火気を感じたら大声で助けを呼び、煙に気付いたらできるだけ頭を低くして避難します。

#### ■ 屋内に閉じ込められた際、

##### 助けを求める方法

笛、携帯ブザーを携帯しておきます。

## 屋外で地震にあったら

### 白杖の携帯

外出時には必ず白杖を携帯するようにしましょう。いざというとき、目が不自由だということを周囲の人に理解してもらおうと、助けが得られやすいです。



### 周囲の人の助けをかりる

付近の人に声をかけて、周囲の状況を教えてください。混乱の大きい場合は、近くの警察、消防、区役所など安全な場所へ誘導をお願いします。

### 《目の不自由な人が困っていたら…》

●まずは、前から近づき一声かけましょう。  
いきなり身体に触ったり、手を握ったり  
するとおどろいてしまいます。

●白杖を持たないほうの手でひじの上を握って  
もらいながら、足元に注意しつつゆっくり  
歩きようにしましょう。このとき、白杖  
や腕をひっぱったり、後ろから押ししたりし  
ないようにします。

●盲導犬をともなっている人に対しては、方  
向を説明し、直接盲導犬を引いたり、触つ  
たりしないようにします。



2

みみ ふ じ ゆう ひと  
耳の不自由な人のために

ひ そな  
日ごろの備え

ひっきようぐ ようし じょうじけいたい  
筆記用具とメモ用紙の常時携帯

み あんぜん はか じょうほうしゅうしゅう たいいち かんが  
身の安全を図るために、情報収集を第一に考

えましょう。ひつだん ひつよう ひっきようぐ  
えましょう。筆談のために必要な筆記用具と

メモ用紙は、常に携帯しましょう。

ほちょうき つか ひと でんち ようい わす  
補聴器を使っている人は、電池の用意も忘れ  
ずに。



さくせい  
メッセージカードの作成

じょうほうでんたつ ようい べんり  
すばやい情報伝達のためにいろいろなメッセージカードを用意しておく便利です。

わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

なに お  
何が起こっているのですか？  
か おし  
書いて 教えてください。

わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

も よ けいさつしよ しょうぼうしよ  
最寄りの 警察署 消防署など  
あんぜん ばしよ おし  
安全な場所を教えてください。

わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

つぎ わたし ふ じ  
次のところに 私は無事だと  
つた  
伝えてください。  
わたし なまえ ○○○○  
でんわばんごう  
電話番号 03-0000-0000

わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

ひなんばしよ おし  
避難場所を教えてください。  
ください。

わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

たす  
**助けてください！**

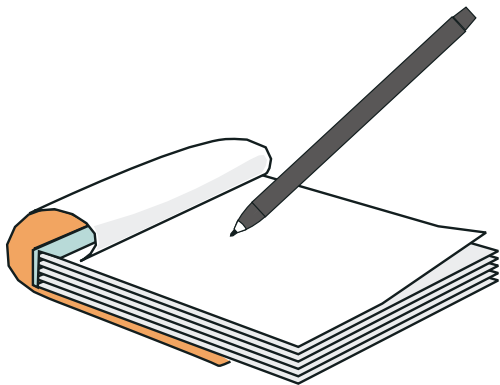
わたし みみ き  
**私は耳が聞こえません。**

---

○○○まで でんしゃ  
電車 バスで  
かえ  
帰れますか？

きんきゆうじょうほう し ほうほう じょうほう おし  
緊急情報を知るための方法と、情報を教えてくれる

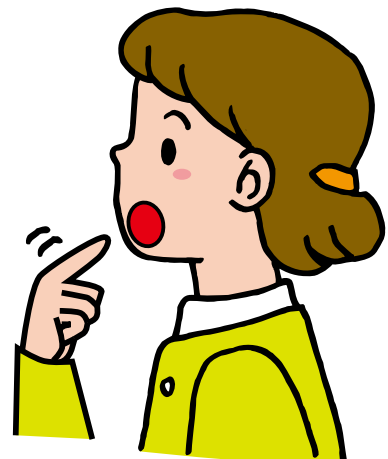
とくてい ひと き  
特定の人を決めておきましょう。



みみ ふじゆう ひと つた  
耳の不自由な人へ伝える

しゅわ かみ ひっき て ゆびさき  
手話や紙に筆記するほか、手のひらに指先  
で字を書いて伝えます。電話の代理を依頼  
されたら、すすんできょうりよく 電話の  
あいて へんじ ひっき かん  
相手の返事などは、筆記してできるだけ簡  
けつ ぶんしょう わた  
潔でわかりやすい文章にして渡すようにし  
ましょう。

くち うご つた かた かお  
口の動きで伝えられる方もいます。顔を  
ま 真っすぐにむけ、くち おお うご  
真っすぐにむけ、口をなるべく大きく動か  
して伝えるようにしましょう。



3

おん せい げん ご しょうがい ひと  
音声言語障害の人のために

ひ そな  
日ごろの備え

ひっきょうぐ ようし じょうじけいたい  
筆記用具とメモ用紙の常時携帯

み あんぜん はか じょうほうしゅうしゅう だいいち かんが ひつだん ひつよう ひっきょうぐ よう  
身の安全を図るために、情報収集を第一に考えましょう。筆談に必要な筆記用具とメモ用  
し つね けいたい こころ ようはいりよしゃさいがいよう けいたいばん  
紙は、常に携帯するように心がけましょう。「要配慮者災害用セルフプラン(携帯版あんし  
てちょう やくだ  
ん手帳)」も役立ちます。

さくせい  
メッセージカードの作成

じょうほうでんたつ ようい べんり  
すばやい情報伝達のためにいろいろなメッセージカードを用意しておくくと便利です。

わたし はな  
**私は話すことができません。**

つぎ わたし ぶ じ  
次のところに 私は無事だと  
つた  
伝えてください。

わたし なまえ  
私の名前 ○○○○  
でんわばんごう  
電話番号 03-0000-0000

わたし はな  
**私は話すことができません。**

も よ けいさつしよ しょうぼうしよ おし  
最寄りの 警察署 消防署を教  
えてください。

わたし はな  
**私は話すことができません。**

か じ  
火事です。  
ばん つうほう  
119番に通報を！

わたし いえ きんじよ いえ  
→私の家 →近所の家

わたし はな  
**私は話すことができません。**

ひなんばしよ おし  
避難場所を教えて  
ください。

たんしんせいかつ ばあい ひごろ しゅつか  
单身生活の場合はとくに、日頃から出火  
さい あいず きんじよ かた と き  
の際の“合図”を近所の方と取り決めて  
おくとよいでしょう。



おくない じしん  
屋内で地震にあったら

かさい はっせい ふきん かさい し  
火災が発生したら付近に火災を知らせる

おと あいず かさい はっせい し きゅうじよ もと  
音や、合図で火災の発生を知らせ、救助を求め

ばん つうほう  
「119番」へ通報してもらいましょう。

かさいけいほうき かなら せっち  
\*火災警報器は必ず設置しましょう。



ふえ けいたい おと で もの けいたい  
笛や携帯ブザーなど音の出る物を携帯

し、まんいち たてもんのかぐとこ  
し、万一、建物や家具に閉じ込められて

うご つか じ  
動けなくなったとき、これらを使い自

ぶん いばしょ し  
分の居場所を知らせましょう。

ひつだん き  
筆談やメモで聞きとる

たいおう  
それぞれにあった対応

すべ ひと しゅわ つか  
全ての人が手話を使えるわけではありませ

ん。しょうがい じき しょうがい ていど  
ん。障害になった時期や障害の程度などに

よってコミュニケーションの手段が異なり

ますので、それぞれにあった対応をするよ

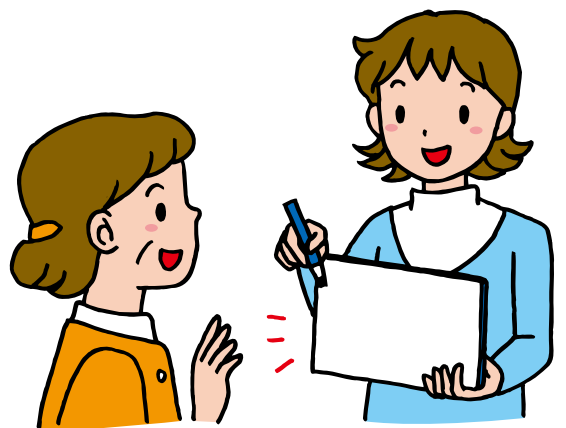
う心がけましょう。えんじょ いらい  
う心がけましょう。援助を依頼されたら、

あいて き  
相手のことばをていねいに聞きとるように

しましょう。き こんなん あい  
しましょう。聞きとりが困難なときは、相

て ひつだん  
手にことわってから筆談をしたりメモをと

るようにします。



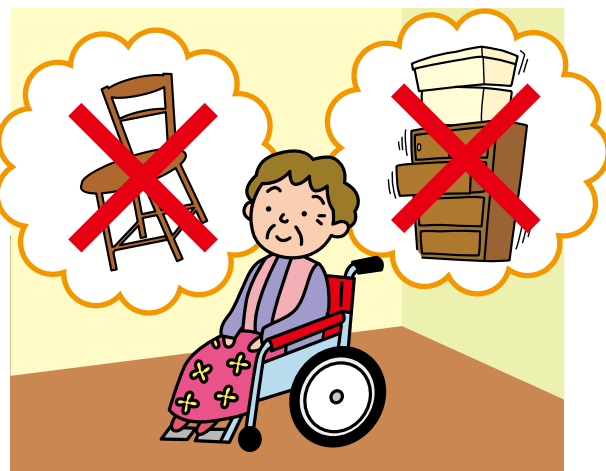
4

したい ぶじ ゆうひと  
**肢体不自由の人のために**

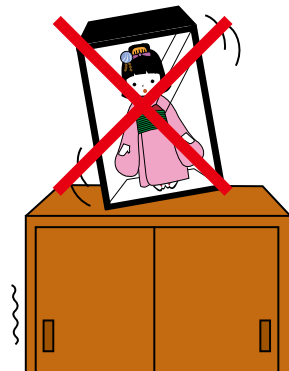
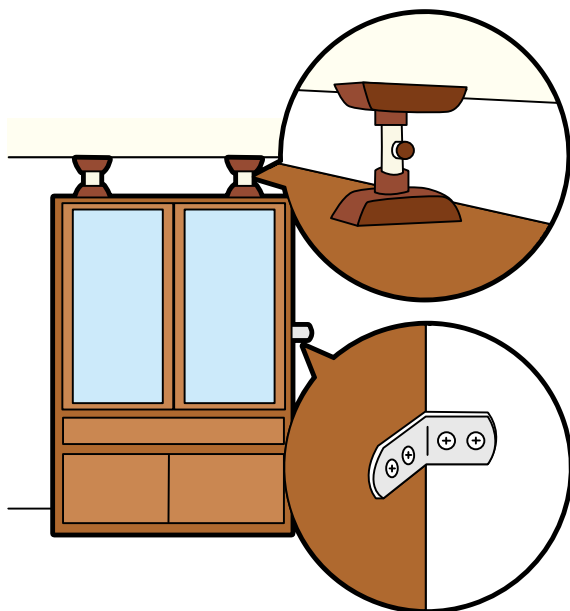
ひ そな  
**日ごろの備え**

あんぜん ばしょ かくほ  
**安全な場所を確保**

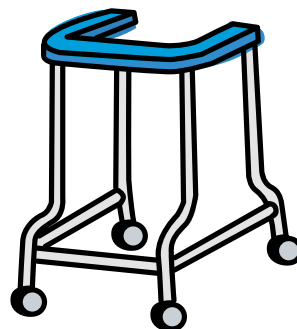
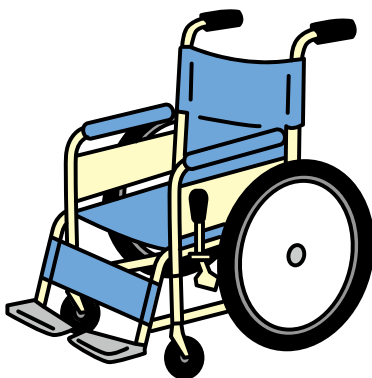
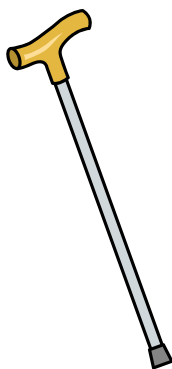
くるま ほこうほじょぐ じゅうぶんとお つうろ いえ  
**車いすや歩行補助具が十分通れる通路を家の**  
 なか かくほ もの お かぐ  
**中で確保します。あまり物を置かないで、家具**  
 などの転倒の心配のない安全なスペースをつ  
 くっておきましょう。



かぐるい てんとう いどうぼうしきぐ  
**家具類には、すべて転倒・移動防止器具**  
 をつけ、らつかぶつ うえ もの お  
**をつけ、落下物のないように上に物を置**  
**かないようにしましょう。**



くるま ほこうほじょぐ じょうたい あ はんそうようぐ つね いったい ばしょ お  
**車いす、歩行補助具、おんぶひもなど状態に合わせた搬送用具を常に一定の場所に置き、い**  
 つか ひさい あと じぶん じょうたい  
**つでも使えるようにしておきましょう。被災した後、自分がどのような状態になっている**  
 し あいてさき つうしょさき さぎょうしょ しょうがいしゃ き  
**かを知らせる相手先(通所先や作業所、障害者センターなど)を決めておきましょう。**



かぞく がいしゅつ ばあい そな まんいち ばあい てだす きんじょ ひと たの  
**家族が外出している場合に備え、万一の場合の手助けを近所の人に頼んでおきましょう。**



## 屋内で地震にあったら

### 頭を保護

座ぶとん、タオル、なければ両手など、できる範囲で頭を保護するようにしましょう。



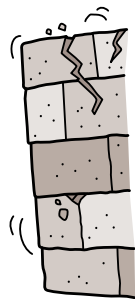
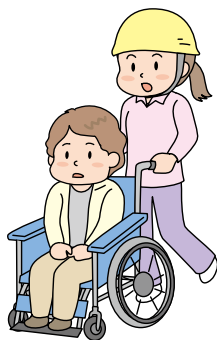
### 低い姿勢で避難

火事が発生した場合、煙にまかれられないように、できるだけ低い姿勢で避難します。

## 屋外で地震にあったら

### 身の安全を守る

ブロック塀や門など、倒壊のおそれがあるものから早く離れるようにし、近くに人がいるときは安全な場所への誘導をお願いしましょう。



街が混乱していて危険な状況のときには、最寄りの警察、消防、区役所などに助けを求めましょう。

## 《車いすの介助のしかた》

車いすを使用している人にとって、車いすは身体の一部のように感じます。誘導介助するときは、勝手に車いすを押ししたりせず、誘導の介助を希望するかどうか必ず本人に確認してからにしましょう。

段差では、3~4人で運ぶのが安全です。上がる時は車いすを前向きに、下るときは車いすを後ろ向きにするのが安全で恐怖感を与えません。いずれもブレーキをかけます。人手がない場合はおんぶひもなどで一人で背負います。この際、背負手の両手はふさがらないようにします。



5

内部障害の人(人工透析を受けている人など)、特別な治療が必要な人のために

ひ そな  
日ごろの備え

いりょうきかん そうだん  
医療機関と相談する

- 人工透析、糖尿病の自己注射などの、特別な治療が必要な人は、地震後すぐに通院できない場合に備えて、対処のしかたや、自宅・避難所で気をつけることを日ごろから主治医や看護師に聞いておきましょう。
- 家族も緊急時の対応を十分に知っておくことが必要です。



いやくひん いりょうようひん じゅんび  
医薬品や医療用品を準備しておく

- 持病の薬、医療用品(ストマ用品やガーゼなどの物品)、特別な治療食は、最低3日分は常備し、避難の時に持ち出しましょう。1~2週間分の備蓄があると安心です。
- 避難所での配給食などをどのように食べたらよいかについても、主治医や看護師に聞いておきましょう。

じぶん しょうじょう じびょう くすり せつめい  
自分の症状や持病の薬について、説明できるようにする

- 災害時には、かかりつけ医療機関に受診できないこともあります。自分の病状や持病の薬、必要な医療処置について、日ごろからメモを作成するなどして説明できるようにしておきましょう。「お薬手帳」、血糖測定の「自己管理ノート」、「透析患者カード」、それぞれの疾患ごとの「患者手帳」などに、かかりつけ医療機関名や必要な医療処置、緊急連絡先などを記入し、携帯するのもよいでしょう。



## 人工透析中の人

- さいがいじ つういんさき いりょうきかん とうせき う ばあい そな しんせき ちじん ゆうじんたく  
 ひなんさき き ちか とうせきいりょうきかん はあく つういん い  
**災害時に通院先の医療機関で透析を受けられない場合に備え、親戚・知人・友人宅などの避難先を決めて、そこに近い透析医療機関を把握しておきましょう。また、通院している医療機関が、近隣の医療機関と災害時の協力関係の取り決めをしている場合もあるので、通院先の医療機関に予め確認をしておきましょう。**
- つういんさき とうせきいりょうきかん きんきゅうじれんらくさき さいがいじ とうせき かん じょうほう にゆうしゆさき  
 あらかじ しら  
**通院先の透析医療機関の緊急時連絡先や、災害時の透析に関する情報の入手先について予め調べておきましょう。**

## ひなん ひつよう 避難が必要になったら

- ひなん ひつよう ひじょうも だ ぶくろ じびょう くすりいりょうようひん とくべつ ちりょうしょく い か  
**避難が必要になったら、非常持ち出し袋に持病の薬、医療用品、特別な治療食を入れて、家族や隣近所に声をかけて避難しましょう。**
- じびょう くすり ひつよう いりょうようひん も だ じんこうとうせき とうりょうびょう じ こちゅうしゃ  
**持病の薬や必要な医療用品が持ち出せなかったり、人工透析や糖尿病の自己注射などの特別な治療が必要な人は、早目に主治医や医療救護所などの医師や保健師・看護師に相談しましょう。**
- とうりょうびょう じこちゅうしゃ こうかん とき ひなんじよ こえ かく  
**糖尿病の自己注射やストマ交換などの時は、避難所のスタッフに声をかけてスペースを確保してもらいましょう。**
- ひなんじよ ちりょうしょく じゅんぴ こんなん ばあい おお だ た もの なか じぶん えら  
**避難所では治療食の準備が困難な場合が多いので、出された食べ物の中から自分で選んで食べましょう。**
- がいしゆつじ さいがい あ きたく じょうたい じんこうとうせき とうりょうびょう じこちゅうしゃ ちりょう じかん  
**外出時に災害に遭い、帰宅できない状態で、人工透析や糖尿病の自己注射など治療の時間がさしせまったときは、最寄りの病院か医療救護所、区役所などに助けを求めましょう。**

